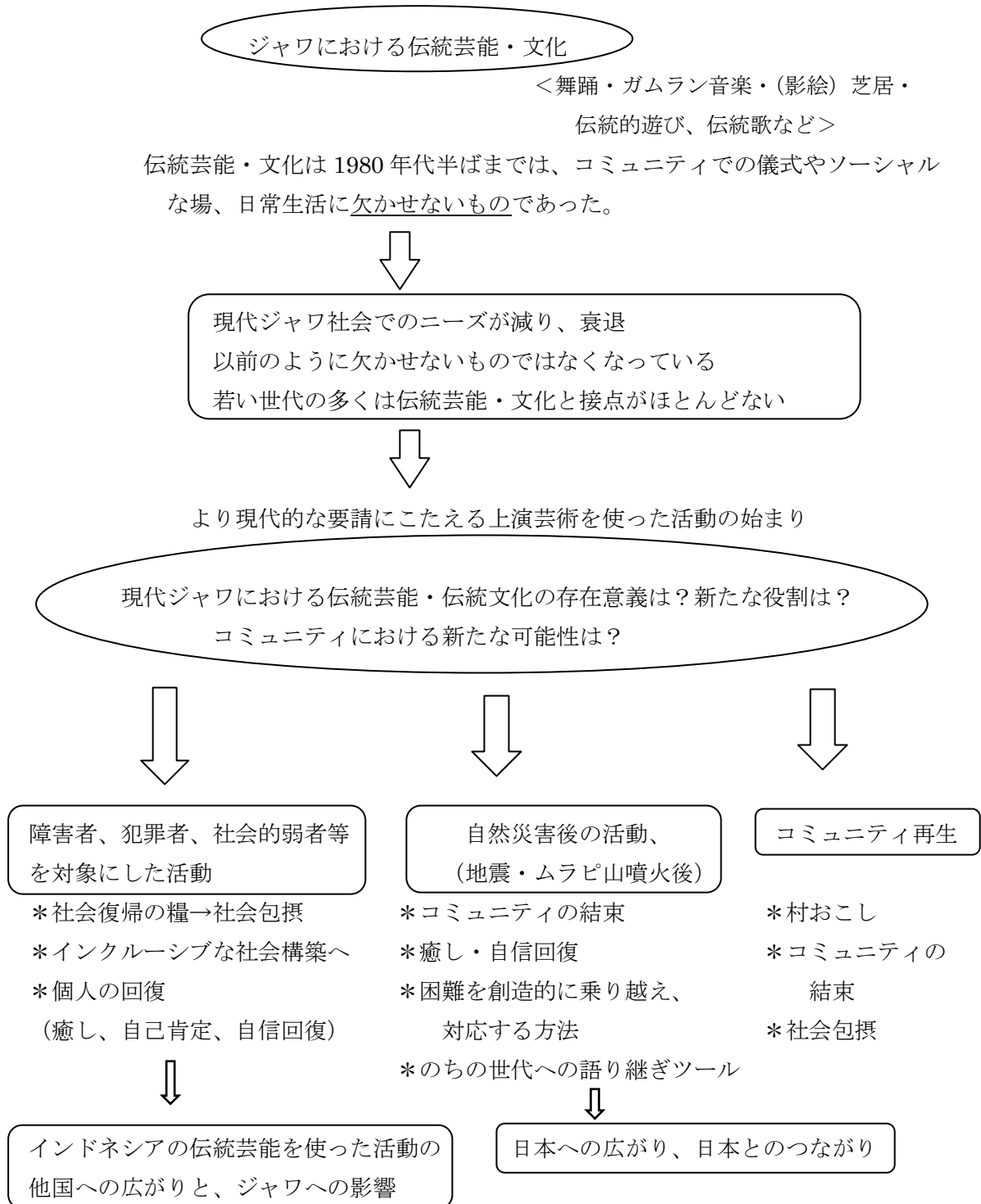


伝統芸能の新たな存在意義：コミュニティへの社会包摂的な応用と災害後の役割の研究



【2013年4月からの主な活動調査】

- ① 障害者のアート活動を中心とした調査
Diff com、マルガサリ、障害児の学校など
- ② イギリスの刑務所におけるジャワガムランを使った活動の調査
イギリスにて、セミナー参加、刑務所での再調査
- ③ 災害後のアート活動の調査
2006年のジョクジャカルタ地震後
創造音楽祭、熱帯音楽祭（日本）への広がり
2010年のムラピ山噴火後
地元アーティストグループ、アクティビストグループによる活動
Tlatah Bocah, Wayang Kancil, Padepokan Tjipta Boedaya など
- ④ 文化によるコミュニティ再生の調査
Communitas Lima Gunung, Tlatah Bocah など

【成果発表】

- ① 2013年6月 Journal of Urban Culture Research Vol. 5 で英語論文発表
- ② 2013年6月6日 第8回サステイナブルデザイン国際会議（西日本工業大学）にて、インドネシアからスカイプを通しての発表（英語）
- ③ 2013年11月13日 The 1st International Conference for Asia Pacific Arts Studies (Graduate school of ISI Yogyakarta)にて発表（英語）
- ④ 2013年12月12日 The 1st International Conference on Performing Arts (ISI Yogyakarta)にて、ゲストスピーカーとして発表（英語）

【今後の予定】

- 成果をアートミーツケア学会誌、都市文化研究などに発表していく。
- 博士論文を完成させる。